新潟県栄養士会2026年度生涯教育実務研修会

〇第3回（学校健康教育事業部）

演　　題：「発達障害等の子どもの食の困難と発達支援

―「食べられない」を傾聴と対話で支援する―」

講　　師：日本大学 文理学部教育学科　教授 田部 絢子 氏

配信期間：2026年8月20日（木）～8月31日（月）

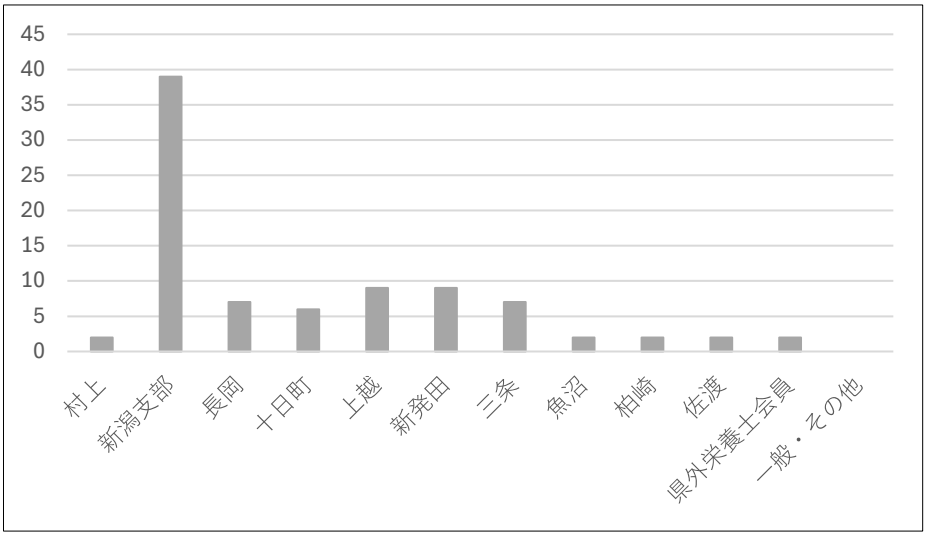
受講者数：104名（再生回数：217回）

【アンケート集計結果】回答者数：87名

〇 所属支部

（人）

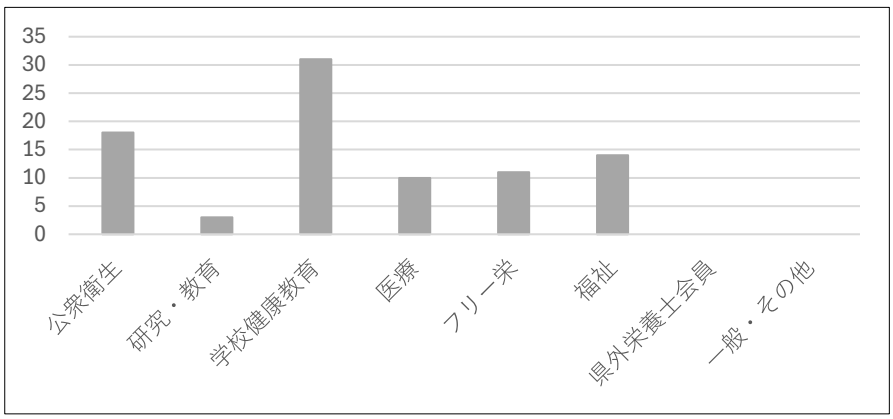
村上	2
新潟支部	39
長岡	7
十日町	6
上越	9
新発田	9
三条	7
魚沼	2
柏崎	2
佐渡	2
県外栄養士会員	2
一般・その他	0



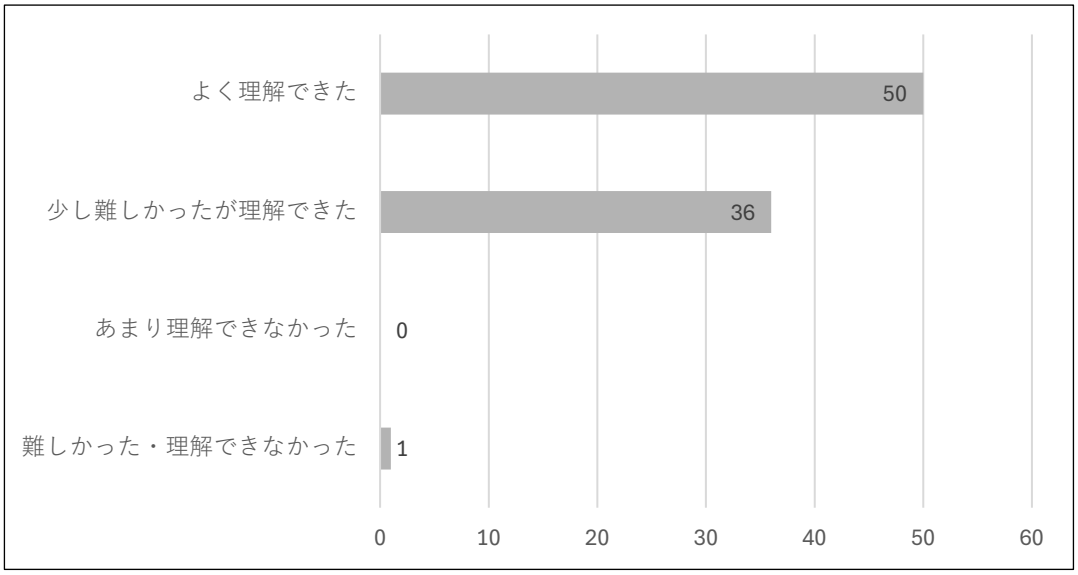
〇職域

（人）

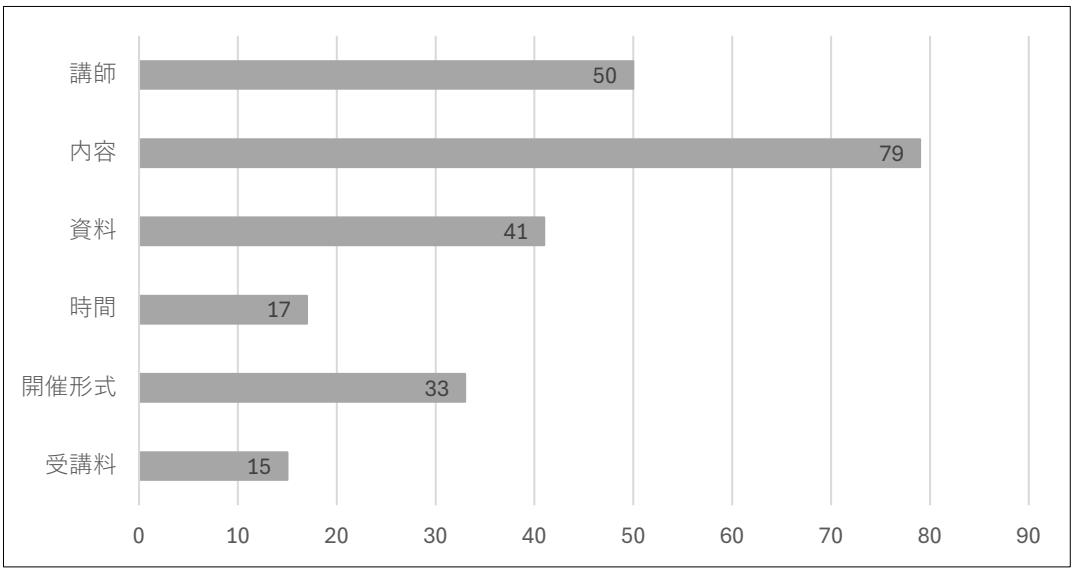
公衆衛生	18
研究・教育	3
学校健康教育	31
医療	10
フリー栄	11
福祉	14
県外栄養士会員	0
一般・その他	0



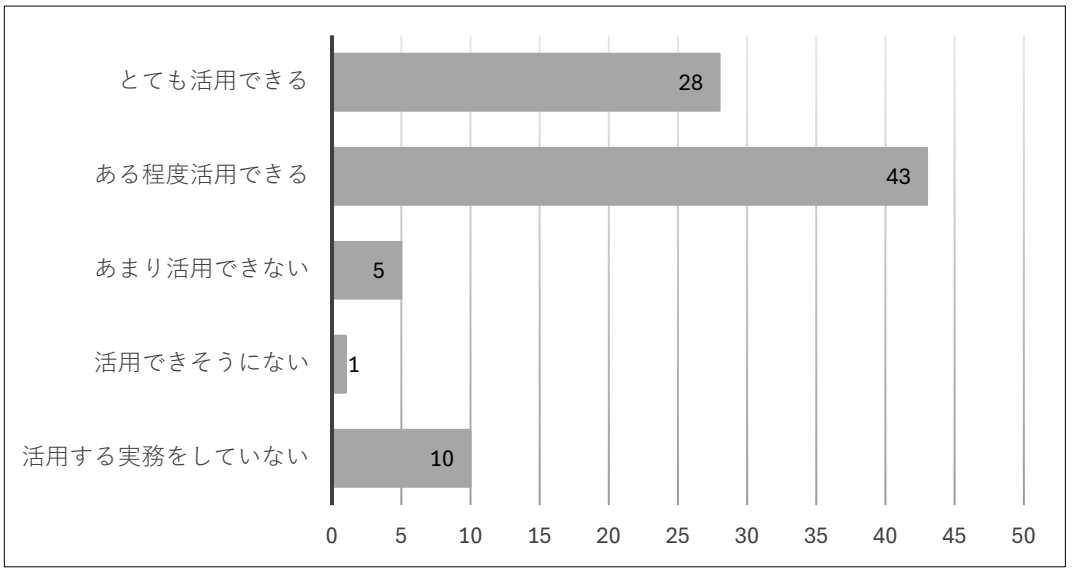
○研修会の内容について　（人）



○良かった点について（複数回答）　（人）



○実務への活用について　（人）



〇実務への活用は「あまり活用できない」「活用できそうにない」の回答理由

・現状の把握はできたが、どうしたら良いのか？は無かったと思います。
学校栄養教諭の立場に立ったお話しで、窓口対応のイメージでした。
・栄養教諭ではないため
・発達障害児の食の背景は理解できたが、実際に支援するとなると具体的ではなく、この講義内容を現場で活かすことは難しい。実践編もあるとよかった。
・特別支援の子供がどのような困難を抱えているのかはわかったが、それに対する対応を具体的に知ることができなかった。具体的な支援策、声掛け等を知りたかった。
・実践的な症例がなかったので、どのように指導しているのか知りたかった。
・職域上、あまり携わることがないため。

〇講師へのご質問・感想

【感想】

・調査資料に基づいたお話で、発達障害を抱えるお子さんの心境を理解することができました。ありがとうございました。
・病院で小児科病棟を担当しております。回避制限性食物摂取症による摂食障害のこどもたちを受け持った経験がありますが、嘔吐への不安を表出する子が多く、今回の講演でそういうことだったのか、と理解することができました。多くが発達障害、またはその疑いを有していました。前例ではないにしろ、関連があることで、支援の仕方の工夫につなげることができそうです。ありがとうございました。
・発達障害や精神疾患の食支援は難しいと感じています。とてもわかりやすく何度も聞き返したいと思いました。お子様と関わることは少ないですが、就労支援に来られる方やグループホーム入居の方の食事摂取場面に、もっと足を運びたいと思います。
・口の発達がうまくできていない子が多くなっているのはすごく気になっていた 今後もよく注意していきたいと思った
・傾聴は保護者だけでなく、子どもの困り感も聞いて、みんなで伴走していくという辺りは納得できました。 次は具体的な事例なども聞きたいと思いました。
・このような状況の場面があった際に、偏見の目で見ないよう気をつけたいと思いました。
・わかりやすくお話しいただきました。先生のお話を伺っていると保護者の方と話をする時にどんなことを大切にして話を進めていったら良いのか気か付くことがたくさんありました。
・具体的な統計資料などが豊富で、資料が読み応えがあり、講義も聞き応えがありました。
我が子も若干傾向があり食嗜好も独特なので、食事の時間が苦痛なときがありました。保護者としての苦慮していることの内容が、まさに、という内容ばかりで共感しました。
・回避制限性食物摂取症について、初めて研修することができ、観察することだけでなく、子供の発言に対して傾聴することが重要であることを学びました。また、保護者の負担が大きいことも分かり、子供だけでなく保護者の支援も重要な課題であることが分かりました。
・食べることが当たり前の行為ではなく、異物を直接受け入れる不安や緊張を伴いやすい行為ということが印象的でした。当事者本人の不安や保護者、支援者の困難に寄り添っていけるように、アセスメントをしっかり行い支援していきたいと思います。
・ARFIDは初めてきいたので、とてもよい学習の機会となりました。

・個別的な伴走支援をするために、具体的な事例・子どもへのアプローチ法をもう少し紹介していただけるとありがたかったです。
・発達障害と偏食などの関係がわかりやすかったです。ぜひ、具体的な個別指導の内容、実践方法なども教えていただけると、現場に活かしやすいです。
・特別支援クラスのお子さんで、まさに「このような子ども」に該当する児童とたくさん出会いました。入学時には白いごはんだけしか食べる事ができなかったお子さんが、給食を通して少しずつ食べられるものが増えていき、保護者と一緒に喜びを分かち合いました。その子のペースで進めていく大切さを学びました。ただ「特質を持っているのか？」「好き嫌いなだけなのか？」の区別にいつも迷います。同じ対応では効果ないので。
・食に対するこだわりやマイノリティな意見に対して、今まで十分に理解してあげられていないことが多々あったのだろうなぁと反省しました。 正直、個別指導はハードルが高いなあと思っていたのですが、既存の特別支援教育部会に混ぜてもらう等で、個別指導を進めていく方法なら、一からグループを立ち上げて行うよりやりやすさそうだなぁと感じました。
・昔の勤務校にいたひとりの児童を思い出しました。あの頃にもっと勉強する必要があったなと思いながら講義を聞いていました。食べられないにも様々な理由があり、いろいろな視点で見る必要があることが勉強になりました。今後の職務に生かしていきます。
ありがとうございました。
・勤務している学校で偏食児童1名とその保護者と関わる中で、もっと本人や保護者の話を聞くことを大切にしなければいけないと思いました。
・乳幼児健診業務での食指導の参考になる研修ありがとうございました
・認定こども園で栄養士をしています。講義内でもありましたが、多くの子どもが大小さまざまな食に関する困難を抱え、発達に問題があるかないかもわからない中で（在園中に発達に関する支援が始まる子どもの方が稀です）、診断が下らない以上、単なる好き嫌いと発達障がいとの対応が分けられない現状です。成長を見守っていて良い場合と支援の介入をしていく場合を判断するに良い資料や取り組みなどあれば教えていただきたいです。
・豊富な調査データを提示いただき、発達障害のある子どもの実態がよく分かった。回避・制限性摂食障害についても詳しく知ることができ良かった。
・「そうだったんだ」と思うことが多い内容で、とても勉強になりました。栄養教諭ですが、個別的な相談指導は正直言って絶対的に時間が足りないと切り捨てている気持ちがあります。それが食の困難を有する子どもと家族を孤立させることにつながっているとしたら…と反省しました。できることを考えていきたいと思います。ありがとうございました。
・今まで問題行動に注目し、それを改善するためにどうしたらよいかと考えていた。講義を受けて、食べられない背景を多様な面から情報収集して、問題の本質を見極めることが、子どものニーズに合った支援を進めるために重要だと理解した。また、校内の様々な職種や学校医、主治医などとの連携も必要であると改めて感じた。まずは、子どもたちの声を丁寧に傾聴することから取り組んでいきたい。
・たくさんの資料やアンケート結果を用いて講義くださり、分かりやすかったです。特別支援を要する子どもたちの声や行動を傾聴する大切さを改めて感じました。

・食の困難を抱えている子どもが、知らないだけで多くいることを知った。思えば自分も小学生の頃、小柄で少食だったため完食することを強要され、給食が嫌いだったことを思い出した。圧力をかけたり嫌な気持ちにさせるのではなく、安心させることがまず重要だとわかった。特定の食材を食べられない理由として、見た目や食感が優位に多いと知ってとても勉強になった。
・保育の現場ではこの様な子ども達が増えていると実感しており、また保護者への支援もかなり必要になっているなと感じていました。今回の研修の内容を会議等で他職員にも共有し、少しでも子ども達の食事時間が楽しいものになったらと思います。 ありがとうございました。
・大変わかりやすいお話でした。学校現場に勤務していますが、特別支援学級に在籍しているお子さんだけでなく、当てはまる子どもはたくさんいると思いました。好き嫌いが多い、偏食が激しい、と決めつけられている子どもの背景にきちんと向き合い、支援をしていくことの大切さを感じました。

【質問】
・自閉症、発語がない児童で、意思疎通が難しい場合どのような対話・傾聴の手立てがあるか具体的に知りたい。

・発達障害の子供でなくても、偏食で困っている相談をよく受けます。新しい食材や苦手な食材を克服する指導で、効果のあるものがありましたら、１つでも良いので教えて頂きたい。（発達障害の子供の多様性は十分理解していますが、現在実施されているものをぜひお願いいたします）

・ASDやADHDなどの診断はなく、成長曲線が正常である場合も回避制限性食物摂取症（ARFID）であるケースも考えられるでしょうか。成長曲線が正常な場合、微量栄養素の摂取不足だけでは、個別指導を優先的にできない現状があります。保護者が困り感を訴えていますが、話を聞くだけでもよいものでしょうか。
※上記質問には田部先生よりご回答いただいております。別紙「質問への回答」をご覧ください。

〇研修会に対してのご意見
・一般論であれば独力でもある程度学ぶことができます。支援者としての心構えや行動を示していただけるとさらに良かったと思います。
・とても勉強になりました。 できれば、講演時間は1時間以内に収めていただくとありがたいです
・就労支援ご利用者様より、同じ食材でも食べられるものと食べられないものがあると教えて頂いたことがあります。口の中での不快感が原因でした。食べられない原因や利用者さまとご家族の感じているお気持ちを理解できました。他の方の食事摂取場面に伺うことが大切と感じました。
・とても勉強になりました（2）
・子どもの食に関する困難を年々感じるようになってきました。子どもの食の発達や困難の症例をいろいろ知ることができました。子どもと対話し、みとり、寄り添った支援が少しでもできるようにしたいと思いました。どうもありがとうございました。

・様々な場面で傾聴が基本で、他職種との連携が大切であることを改めて感じました。
・とても良かったです。これからの仕事に生かせます。職場の中でできることを探して小さなことからでも進めていきます。
・ARFIDは初めて聞く言葉でしたが、割と身近に多くいるのではないかと感じました。様々なことを関連させながらアプローチしていかなければないらないので、難しい部分もたくさんありますが、食べることをストレスと感じない環境を作ってあげたいと思いました。
・発達障害等の食の困難に関する文献がたくさんあることがわかりました。
・詳細な配布資料をいただきありがたかったですが、文字が細かすぎて見えにくい箇所があったのが残念でした
・学校の栄養教諭の業務について理解が深まった。
・今後の食支援をする上で、とても参考になった。
・人間誰しも何かしらの傾向があり、得意不得意があると思うので、食の嗜好に関してもさまざまな傾向があって然るべきだと思いました。発達途上である子どもたちの困難さに寄り添っていきたいと思います。
・とても分かりやすい内容で、発達障害に対する子どもたちの食の課題について、学びを深めることができました。今後の職務に生かしていこうと思います。
・食の困難を有する子どもが増えてきていると感じていたので、支援方法を学ぶことができて大変参考になりました。
・個別的な伴走支援をするために、具体的な事例・子どもへのアプローチ法をもう少し紹介していただけるとありがたかったです。
・発達障害のある子どもたちが食の困難も抱えている場合が多いことがわかった。そういう子どもたちに対して、具体的にどのようにききとり・指導等していったらよいのか、詳しくききたいと思いました。
・私のＰＣのせいかもしれませんが、音量が小さく視聴しづらかったです。
・食べる事が苦痛ではなく、喜びに感じられるような給食時間の過ごし方と、食支援に繋げることができるように、これからも精進していきたいです。専門ではない分野の食事情を学んで行けるように、今後も多様な研修の場をお願いしたいです。
・すべてとは言えませんが高齢者、特に認知症の方にも通じる内容だと思いました。小児は畑違いと思っていましたが、受講して良かったと思います。
・わかりやすく、業務にいかしていける研修でした
・オンデマンド研修は、リプレイして確認できるところがとてもありがたいです。
・今回の内容の病院での事例紹介や、実践編をお願いいたします。第二弾希望。
・とても勉強になった。また、重要な提言をいただいたと思った。管理栄養士の最低限身につけておくべきスキルに大きな差があると、対策が進まない。栄養士会非会員でペーパー管理栄養士対策が必要かと思う。
・特別支援の児童が増え、食の課題も増えています。児童や保護者に直接向き合う学級担任に、情報提供が必要だと思いました。食の課題について、チームになって対応することが必要であることを、管理職はじめ、周りの職員に理解してもらい、少しでも進めていきたいと思いました。
・オンデマンドの研修は、繰り返し視聴することが可能なので、とてもありがたい。 発達障害

等支援を要する子どもが年々増加しており、栄養教諭としてどのように接していったらよいか常に悩んでいたので、今回の研修内容はとても役立った。また、参考文献も紹介いただいたので購入して、より学びを深めていきたい。
・夏休み期間中の視聴で時間が取りやすくありがたかったです。 またコロナ禍以降オンデマンド配信になったことも参加がしやすくなりました。
・発達障害等のために食の困難を抱える理由がさまざまであることを学ぶことができた。
以前、担当した患者さんが発達障害により食べるものが限られていた経験があるが、食べられるものを広げることはとても難しいと実感する。本人の困りごとを受け止め、チームで理解を示しながら対応していく必要性を改めて学ぶ機会となった。
・新たな視点、気付きの多い研修でした。ARFIDを有する子どもの困難に寄り添い、さらにはその保護者も困難やストレスを抱えていることを理解しなければいけないと感じました。
理解、配慮が不足しているために、誤った対応をしていることも多いのでは、と思います。
栄養教諭として、個別的な相談へのニーズに応えられるよう、自己研鑽を積まなければといけないと感じています。まずは、目の前の子どもたちをよく見たいです。

〇講演会について・今後の講演会への希望

・どの様なことでも
・発達障害の偏食の具体的な対応と事例が知りたいです
・発達障害の食支援について具体的な対応方法をもっと詳しく知りたいです。
・5歳児健診が始まることに伴い、発達障害等の子どもの支援として具体的な症例をもとに栄養指導を学べるような研修の機会があるとよいと感じました。
・いつも様々な研修会を実施していただきましてありがとうございます。 子どもに保護者の方に寄り添えるように考えていきます。
・伴走してエンパワメントすることの大切さはわかったので、個別アプローチの具体例をたくさん紹介していただけるような研修をうけたいです。
・個別的な相談指導の手順、事例報告
・今回の摂食障害の進展による最新情報を期待しております。
・偏食対応、実践的な対応について講演を聞きたいです。
・もう少し短いコマ（15分から30分程度）の講演会があると嬉しいです。
・業務にいかせる最新情報の研修を希望します
・次回は具体的な食支援方法について学びたいと思いました。
・視聴期間は、今年度と同じくらいの期間にしていただけるとありがたいです。
・小児の低身長の指導について
・落ち着きのない子供や、うつや不登校の子供への栄養指導について
・スポーツ栄養
・児童、生徒への個別的な相談指導に関する講義、講演を続けていただきたいです。
・今回の研修にも出た【口腔機能発達不全症】について掘り下げた内容の研修が可能でしたら勉強してみたいです。